

RUN 伴 2018in 東三河・新城への協力（報告）

愛知県認知症 GH 連絡協議会東三河ブロック

拡がる繋がり、 結ばれる想い。

今年の東三河地区の RUN 伴は、2 日間の日程で開催され、昨年よりも飛躍的に進化していたのです。

9/23（日）に行われた in 新城は、“のんほいルロット（軽トラ市）”へゴールを設定し、北と南の2コースを用意。広大な新城地区をロードバイク好きな若者？の協力でカバータスキを繋ぐ。一方、南コースからは救命の要である市民病院よりマラソン愛好家の皆さんを中心にタスキを走って繋ぐ。出発点の養護老人ホームでは、今話題となっている“こども食堂”の開催日でもあり、まさに多職種・異職種の協働と社会福祉全体の発展に貢献したイベントに変革を見せたのです。秋晴れの中、“山の湊”の賑わいを久しぶりの感じたホームの皆さんの心へ訴える企画でした。

RUN 伴（ランとも）は、今まで認知症の人と接点がなかった地域住民と、認知症の人や家族、医療福祉関係者が一緒にタスキをつなぎ、日本全国を縦断するイベントです。



市長を先頭に BE ORANGE（in 新城）



未来へ繋げる、 こどもへの希望。

9/29（土）に行われた in 東三河は、全国的に猛威を振るった台風24号の接近を控え、計画の変更と強行…多くの趣向を凝らす。

“こども未来館ここにこ（豊橋市）”へ設置されたゴールを目指し、豊川コースから40数キロの道のりをRUN。道中、5ヶ所のグループホームへ立ち寄り、バンド演奏を行う等の工夫も…。

“こども未来館ここにこ”をスタートとゴールに設定した豊橋エリアは生憎の悪天候の為、館内での啓発活動へ力を注ぐ。豊橋市の長寿介護課地域予防啓発グループのイベントとのコラボ企画などで「認知症の人も安心して暮らせる街づくり」を啓発しました。



グループホームの入居者さんで作成した「星に願いを」を来場して戴いたこどものみなさんへ配布。想いは届け！！

他、東三河ブロック作品展も同時に展示。



認知症の人との出会うきっかけがなかったがために、認知症の人へのマイナスイメージを持ってしまいがちな地域の人々も、喜びや達成感を共有することを通じて、認知症の人も地域で共に暮らす大切な隣人であることを実感できます。

RUN 伴（ランとも）は、そんなあらゆる人々の出会いの場をデザインし、顔の見えるつながりを各地で生んでいます。（認知症フレンドシップクラブより）